

せいらんそう

社会福祉法人
芳香会誌
第20号
2012年12月発行

昭和五十七年 開設時の様子



平成二十四年 現在の様子



芳香会病院青嵐荘療育園は、開設して三十周年となりました。
懐かしい写真とともに歴史を振り返りました。

もくじ

CONTENTS

三名の実践報告 . . . 2

- 実践Ⅰ 全国青年経営者大会
- 実践Ⅱ いばらき医療福祉研究集会
- 実践Ⅲ 日本社会福祉学会

頑張る相談員 . . . 3

- 茨城県地域生活定着支援センター
- 青嵐荘つくし園相談支援事業所

委員会トピックス . . . 3

障害児・者施設トピックス

- 青嵐荘療護園 . . . 4
- 青嵐荘路のとう舎 . . . 4
- 青嵐荘療育園 . . . 4
- 青嵐荘つくし園 . . . 4

海外との関わり . . . 5

- 世界孤児の日制定推進大会
- EPA受入第二弾

芳香会活動報告 . . . 6

- 芳香会スケジュール . . . 6
- 編集後記 . . . 6



2011年3月11日に発生した東日本大震災において被災された皆様に、改めて心より
お見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

三名の実践報告！

芳香会では、法人の実践を様々な場で発表しています。実践の発信を通じて、自らの実践を振り返りつつ、今後も社会福祉法人として地域社会に貢献できる活動・実践を目指します。

《実践Ⅰ 全国青年経営者大会》

芳香会はこの数年、ご利用者を中心にご家族と職員、地域の方々や小中学校の学生、老人会など様々な団体にご協力をいただき、エコ・リサイクル活動を皮切りに、側道沿いのゴミ拾いや花壇の植栽など環境美化活動を積極的に行って参りました。同時に中学校の総合学習の時間に、学生とご利用者の交流会を行うなど教育分野も含め、昨年研究所を設立するなど様々な活動を実践して参りました。

存在意義を高めるために
（活動を社会に発信するためには）
ポイント1 “実践”できる
ポイント2 “見える化”できる
ポイント3 “評価”できる
ポイント4 “みんな”でできる
ポイント5 “無理なく継続”できる
特に地域や社会全体に成果を見える化できる継続的実践となるよう

しかし悲しいことに昨今の私たち社会福祉法人に対する社会的評価は非常に厳しく、地域の中でその存在意義をどう高め、使命をどう果たすのか、と問われています。日々を懸命に頑張っている職員の姿や芳香会の活動の実際と成果を今こそ社会へ発信できたら、そして私たちの活動が充実したものにしていきたい、との強い思いから十一月五日（月）に和歌山市で行われました全国青年経営者大会において、実践事例としてこれまでの活動と取り組みを発表させていただきました。

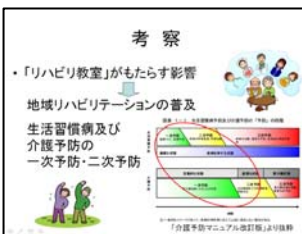


《実践Ⅱ 第二十五回いばらき医療福祉研究集会》

これから私たちは様々な活動を見える化し想いを形にしていきたい、広く地域や社会に貢献する法人であり続けたい、そう考えております。
【青嵐荘養護老人ホーム 施設長 窪 誠勇】

十月二十八日（日）に開催されたこの研究集会は、医療・福祉に関わる様々な分野に関する演題をいくつかの分科会に分けて発表する集会で、私は『地域高齢者（老人会）との交流について』と題して、青嵐荘ケア・アシスタンスで行っている上大野地区・稲宮地区の老人クラブとの交流会について、その経緯や活動状況を発表しました。発表では、交流会も開始から四十年となり、我々リハビリスタッフが行なう「体力測定」と、実際にリハビリ器具を老人クラブの方々が使ってみる「お試しリハ」とを併せた「リハビリ教室」へと、プログラム内容を介護予防事業中心に変化させたことで、地域の高齢者が介護予防事業に強い関心を持っていることがわかり、交流会の継続が地域リハビリテーションの普及と介護予防・生活習慣病予防に繋がるという内容としました。

日々の実践内容を発表・報告する機会が少ない中で、このような集会で発表できたことは、とても貴重な体験ができたと感じています。機会があれば、また是非参加したい



と思います。

【青嵐荘ケア・アシスタンス 理学療法士 宮川 誠】

《実践Ⅲ 日本社会福祉学会 第六十回秋季大会》

このたび私は芳香会社会福祉研究所の研究員として、十月二十日（土）、二十一日（日）の両日、関西学院大学（兵庫県西宮市）にて開催された「日本社会福祉学会第六十回秋季大会」にて発表をさせていただきました。

日本社会福祉学会は昭和二十九年に創設され、会員数も五千人を超える社会福祉の分野では最も権威のある学会であります。

芳香会社会福祉研究所では、日頃の研究活動の成果を世に問うとともに社会に還元するため、昨年の秋季大会から研究員が発表を行っております。

今回は昨年度から取り組んでいる「民間協力者による地域に根ざした更生保護のあり方に関する研究」というテーマで発表を行いました。司法福祉・更生保護分野の分科会での発表でしたので、福祉関係者のほか司法関係者も参加されており、様々なご助言をいただくことができました。

このような場での発表により、様々な知見を吸収し研究活動の精度を上げることができたいめ、今後も積極的に発表の場を求めていきたいと思っております。



【芳香会社会福祉研究所

研究主幹 酒寄 学】

頑張る！ 相談員

芳香会では、施設・在宅事業所等に、二十四名が相談員として業務に従事しております。今回は在宅事業所にて活躍する相談員に仕事に対する想いを語っていただきました。

茨城県地域生活定着支援センター

ターは、茨城県から事業を受託し、矯正施設（刑務所等）に現に入所されている方たちのなかで、高齢もしくは障害を有する人が矯正施設退所後、直ちに福祉サービス等を受けられるよう、また地域社会に定着できるよう支援しております。私達は日々、茨城県内に留まらず、日本各地を飛び回っております。

地域生活定着促進事業を開始し、約二年が経過しました。事業所としても自分自身としてもまだまだ未熟な点が多くあり、「生き難さ」を抱える対象者への支援において自分自身の力量不足を痛感する場面にも多く直面します。しかし、支援対象者が安心して地域で生活を営まれている様子や笑顔を見ることができると、長距離移動の疲れも吹き飛び、自分自身の支援に少しですが自信を持つことが出来ます。

自分自身も対象者が地域にて安心して生活するための「資源」であることを自覚し、今後も司法と福祉、それぞれの知識や技術を身につけ、そして広い視野が持てるよう努力し、事業の発展に貢献したいと思えます。

【茨城県地域生活定着支援

センター

相談員 菊地 優



青嵐荘つくし園相談支援事業所は、古河市から相談支援事業の委託を受け、地域において生活されている身体障害・知的障害・高次脳機能障害をお持ちの方からの相談を受け、できれば自立した生活を行うことができるのか、ご利用者と一緒に考えております。現在、二名の相談員（社会福祉士）が配置され、ソーシャルワークの専門性を発揮し、事業に従事しております。

日頃、このような方々からのご相談を受け、地域で生活される障害者の方々は人とのつながりが薄いという課題が大きいと思います。一緒に考えていく中で、相談の解決に向けて人とのつながりをアプローチしているケースが多く、私たち相談員についても「障害者と地域の資源をつなげる」・「地域資源同士のつながりを深める」という支援を行っています。このことから「人とながる」ということが、私にとっても新しい知識・新しい発見として自分自身の成長にもつながっております。

当事業所は、古河市内において一番最初に立ち上がった相談支援事業であり、地域において先駆的に相談支援を進めています。今後も地域資源との連携を深め、必要に応じて地域資源を作り、そして地域資源の成長を促すことを事業所として目指していきたいと思えます。

【青嵐荘つくし園相談支援事業所

係長 長谷川大史



委員会トピックス

あんしんふくし相談会は福祉に関する様々な相談や多様な要望にお応えできるよう、身近で地域に密着したショッピングセンター「イトーヨーカドー古河店」にて、開催しております。

相談会は平成十七年から始まり今年で八年目を迎えました。

当初は介護保険法改正と重なり、主な相談内容は家族の介護や介護保険制度の疑問（制度内容や費用負担等）が占めていました。しかし、今年度においては介護予防や健康（食事・体操）といった相談内容へ変化してきました。このようなことを踏まえ、通常の相談会以外にも、専門職（看護師・管理栄養士・理学療法士等）のイベントや「敬老の日」などを取り上げたイベントを開催することでニーズの変化に対応させて頂いております。またイベントを開催することで相談件数が増えました。相談をした方々は話をするだけで「すっきりした」と言われる方や「悩みが解決した」と言われる方もおられ、更には福祉サービスへと繋がったケースもありました。

「施設は敷居が高くて相談しづらい」と等と思われる方々もイトーヨーカドーへの買物ついでにお気軽にご相談下さい。

【あんしんふくし相談会実行委員長

青嵐荘つくし園

相談支援員 杉野隆亮



障害児・者施設トピックス

社会参加を目指して (青嵐荘療護園)

青嵐荘療護園では、毎年九月に開催される「古河ふれあい広場」へ継続して参加をしております。今年は九月八日にネーブルパークで開催され、七名のご利用者がステージ発表と物品販売に臨みました。

ステージ発表では教室活動で取り組んでいる車いすダンスを披露しました。特製の衣装に身を包み、満を持してステージに登壇すると、最初こそ表情に若干の硬さが見られましたが、練習以上の成果を発揮し、大満足の出来でした。

また近年は、制作した手作り小物などの販売にも取り組んでおり、当日は製品作りに携わったご利用者に販売まで行ってもらいました。呼び掛けもよく製品は完売となり、ご利用者の笑顔が絶えませんでした。

私たちは今後もこのような活動の機会が増やせるよう支援して参ります。



秋の宝探し (青嵐荘路のとう舎)

十月三十日、ご利用者十二名・職員四名にて毎年恒例の「秋の宝探しならぬ芋ほり会」に行ってきました。毎年参加するご利用者は、長靴を履き軍手もしっかりつけて準備万端。こ

まで気合いを入れていくには理由があります。そうです。掘ったお芋は、今シーズンのご利用者の焼き芋会のお芋として、また秋のスイーツとして使われるのです。気合いの入ったご利用者たちによって掘られた量はケース十五個。ご利用者は手ごたえを感じたようで、帰りの車内で「焼き芋会楽しみだ」と、次の話題です。

十一月に入り、焼き芋会当日がやってきました。職員は焼き場担当とお芋担当に分かれ準備に大忙し。「今日は焼き芋会だ」とご利用者たちも期待が膨らみます。温かい状態で食べていただくように職員総出で頑張りました。焼いたお芋は約百本。外はカリッ、中はホックホックのお芋が焼きあがりました。「いただきますーす！」焼きたてのお芋を食べる姿を見ると、秋の味覚を満喫している様子がうかがえました。残りのお芋は別の日に、蒸し芋・サツマイモスティック・ケーキとして調理しています。秋はやっぱり食欲の秋、ですね。



三十年分の笑顔に感謝 (青嵐荘療育園)

十一月十一日に芳香会病院青嵐荘療育園創立三十周年を祝う会を開催致しました。昭和五十七年四月に開設し、これまで法改正等、様々な変化がありました。そういった状況でも施設運営が継続できたことは、ひとえに皆様方のご支援の賜物と深く感謝してお



ります。当日は、ご利用者五十名全員とご家族二十五名が地域交流ホームへ集い、この節目を祝うことができました。催しでは、ジャズオーケストラの生演奏を披露していただきました。また厨房スタッフが工夫を凝らした軽食バイキングでお腹を満たし、スライド「三十年分の笑顔」を上映。懐かしい写真と歴史を振り返りました。今年度から新施設体系で運営しておりますが、今後も地域で信頼される施設となるべく邁進していく所存です。

笑顔の嵐を巻き起こせ (青嵐荘つくし園)

十一月二十四日に恒例行事である文化祭「つくし祭」を行いました。今回は「笑顔の嵐を巻き起こせ。つくし祭だろ〜」というテーマのもと、地域と共に創り上げるつくし祭となりました。アトラクションとして、オカリナサークル「花みずき」様、筑波大学YOSAKOIサークル「斬桐舞」様にお越しいただき、素晴らしい演奏や迫力あるダンスをご披露いただきました。また、夏祭りに引き続き、エコ食器の使用と被災地支援活動基金集めを行いました。

被災地支援活動基金集めでは家族会・利用者互助会の募金活動では二人一組になり交代制で行いました。はじめは緊張気味だったメンバーも少し時間が経つと大きな声で「募金お願いします！」と呼びかけを行っていました。

今後も地域の方と共に創り上げ、参加の出来る行事を行っていききたいと思えます。



海外との関わり

平成二十二年に策定された新成長戦略では、「医療・介護の分野は成長牽引産業」と位置付けられ、海外展開の促進も掲げられています。芳香会でもフィリピンをはじめとする海外出身の職員が居り、異文化共生を考え始めています。ここでは、海外との関わりのある二つの記事から、当法人の取組み状況を紹介します。

世界孤児の日制定推進大会in韓国 〜田内千鶴子生誕百周年記念式典〜



去る十月二十九日から三十一日に韓国ソウルと木浦（モツポ）において開催された表記大会に役職員八名が参加いたしました。伝えたいことは多々ありますが、紙幅の都合もあり、この大会の主人公である田内千鶴子女史（韓国名 尹白鶴／ユンハクチャ）と御長男の尹基氏（ユンキ／日本名 田内基／社会福祉法人こころの家族・理事長）の紹介を致します。

千鶴子女史は幼少時に朝鮮総督府官吏の父と木浦に渡り、長じてから多くの孤児と生活を共にしていた尹致浩氏（ユンチホ／木浦共生園創始者）と結婚しました。しかし致浩氏は朝鮮動乱の混乱の中で行方不明となり、以後反日感情の厳しい中、母として共生園々長として、五十

七年の生涯に三千人もの韓国孤児を守り育てた日本人が誇るべき女性のお一人です。本大会は千鶴子女史生誕百周年を記念し、女史の夢であった「孤児のいない社会」実現の第一歩として、この偉人を輩出した木浦から国連に「世界孤児の日」の制定を要請するものです。そのための様々なプログラムがソウルと木浦で開催され、日本人を含め延べ三千人が参加し、女史の誕生日である三十一日には、韓日協働で国連「世界孤児の日」制定推進決議・宣言が行われました。

尹基氏は御長男でしたが千鶴子女史の意志で共生園の孤児達と一緒に育てられ、女史の遺志を最も濃く受け継いでおられる方です。キムチと梅干が同時に食べられる老人ホーム「故郷の家」を大阪・神戸・京都に建設し、戦前戦後を通してご苦労を重ねられた在日韓国人の方々が安心して暮らせる場所を創られました。

私は三十年ほど前に「木浦共生園」を訪ねたしましたが、今回の大会参加で千鶴子女史の偉業と、それを受け継ぐ尹一族の、国と民族を越えての福祉にかける情熱と行動力に改めて敬意の念を深くいたしました。

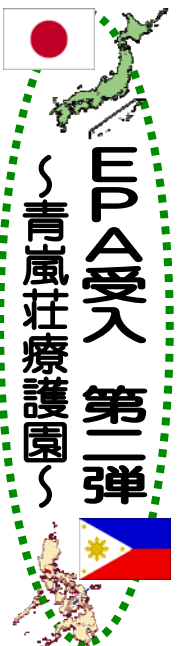
困難な課題はあるものの、世界有数の豊かな国、日本。自国のことのみならず、世界に目を向けた福祉社会の実現に貢献しなければとの思いを新たにいたしました。同行した次代を担うべき職員達も、偉大な先達の姿に大切な何かを感じてくれたものと思います。

【社会福祉法人 芳香会

理事 宇留野 功一】



芳香会では、EPA（日比経済連携協定）に基づくフィリピン人介護福祉士候補生を平成二十二年十一月から受入れています。平成二十四年度には、青嵐荘特別養護老人ホームに引き続き、青嵐荘療護園でも候補生の受入れを開始しました。



青嵐荘療護園では、平成二十四年十一月二十三日より、第四期EPA介護福祉士候補生として、ミアミさん（写真中左）とミレットさん（写真中右）の二名を受入れています。五月の「開講式」に始まり、七月には「大阪ユニバーサルスタジオリヤンで交流会」、八月には「当施設でのウェルカムパーティ」に参加頂き、職員と共に「古河花火大会を鑑賞」しました。九月には「就労ガイダンスへ参加」し、候補生たちに会うたびに日本語が上達していることに熱意を感じることができました。

母国フィリピンを離れ、慣れない環境の中の半年間の日本語研修は、大変なことだろうと推察します。この度、二人は閉講式を終えて古河市へやってきました。芳香会の職員より頂いたたくさんの寄付物品に囲まれながら、新居での生活をスタートさせています。彼女たちは、二年前に特養へ入職した同じEPA候補生の先輩を手本として、介護福祉士取得を目指します。皆さんも是非応援して下さい。



芳香会活動報告

痛いのは一時 救うのは一生

通算四回の移動献血で、延べ二百三十一名の方に協力頂きました。

芳香会では、東日本大震災を切っ掛けに「移動献血事業」に協力を行っています。平成二十四年十一月十三日には四回目を実施し、累計献血量は七十七リットル。また四回全てに参加された方も六名いらっしゃいます。

茨城県内で一日に使用する血液の量は、約八十リットルになるそうです。皆様のご協力により一日分の命が支えられたことに感謝いたします。



新しい風が養護から

高台の養護老人ホームに「風力発電ハイブリッド型外灯」が設置されました。



環境問題への取組みの一環として、「風力と太陽光で発電できる外灯」を設置しました。設置した養護老人ホームは高台に位置し、風や光の届きやすい立地であるため、第一号の導入となりました。

この外灯設備は、発電・蓄電した電気から蛍光灯×十本を十二時間点灯できるとのこと。クリーンエネルギーの活用だけでなく、災害時の備えの一環としても重要な設備です。

当たり前の福島をとりもどすために

福島県南相馬市へ「ひまわりの種・約十八kg」をお届けしました。

前号で掲載しました通り、平成二十四年十月に「つながり∞ふくしま」への協力として、ひまわりの種をお届けしました。集まった種は三十六万個・十八kgになります。福島県内の障害者施設では、現在も農業や養鶏が出来ない状態です。そこでひまわりを復興のシンボルとして精油事業が始まりました。一歩ずつ進みだしている様子です。

一方、福島原発に近い南相馬市小高地区では、「生活基盤がなければ住民は戻れず、住民が戻らなければサービスは再開できない」というジレンマを実感しました。今後とも継続した支援を行う決意を新たにしました。



南相馬市小高地区の様子

現在も船が打ちあがったままになっていました

芳香会スケジュール

一月	十六日	個人情報保護推進研修会
二月	上旬	社用車実務研修会
	十九日	第二回リーダー研修
三月	中旬	社会支援活動報告・慰労会
	十六日	第三回理事・評議員会
	中旬	第三回第三者委員会
	二十六	新任職員&中途採用職員合同研修会
	二十七日	入社式・辞令交付式
	二十九日	高校生インターンシップ

編集後記

今年も残すところわずかとなり来年への思い新たに「困難は改善の好機」この言葉を胸に深く刻み法人の舵取りをして行きま。会報も二十号目となり、職員・利用者・地域と個々の地道な活動こそ宝です。キードは協働です。

(光)

師走となり、仕事もプライベートも心置きなく新年を迎えられるように、ラストスパート中です。『来年こそは』目標達成に向け、更に努力を致します。皆様、良いお年をお迎え下さい。(加)

体調を壊し、前回協力出来なかった献血。機会がなく、今回久しぶりの二回目で緊張してしまいました。いざ行うとどんどん出る、男性並みとのこと。看護師さんからお褒め(?)のお言葉を頂きました。次回以降も少しでもお役にたつことが出来れば幸いです。(房)



社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL 0280-97-1027(代) FAX 0280-97-1112

ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp> メールアドレス honbu@houkoukai.or.jp

※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。